

滞留水の貯蔵状況(12月15日時点)

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
- ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中

②1~4号機タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5, 6号機滞留水貯蔵量

- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約11,700m <sup>3</sup>	TP.1,384 (OP.2,841)
2号機	約15,800m <sup>3</sup>	TP.1,429 (OP.2,881)
3号機	約15,700m <sup>3</sup>	TP.1,297 (OP.2,734)
4号機	約15,600m <sup>3</sup>	TP.1,353 (OP.2,792)
合計	約58,800m <sup>3</sup>	

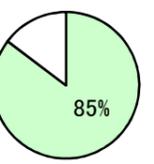
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約16,080m <sup>3</sup>	TP.3,183 (OP.4,545)
高温焼却炉建屋	約2,270m <sup>3</sup>	TP.-373 (OP.1,073)
合計	約18,350m <sup>3</sup>	

(合計):-1300[m<sup>3</sup>/4週] (合計):-220[m<sup>3</sup>/週]

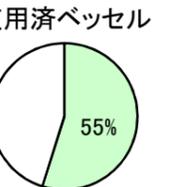
施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	717m <sup>3</sup>	1,200m <sup>3</sup>
SPT(B)	1,169m <sup>3</sup>	3,100m <sup>3</sup>
合計	+11[m <sup>3</sup> /4週]	+160[m <sup>3</sup> /週]

④廃棄物発生量

廃スラッジ



保管量:597/700[m<sup>3</sup>]\*3

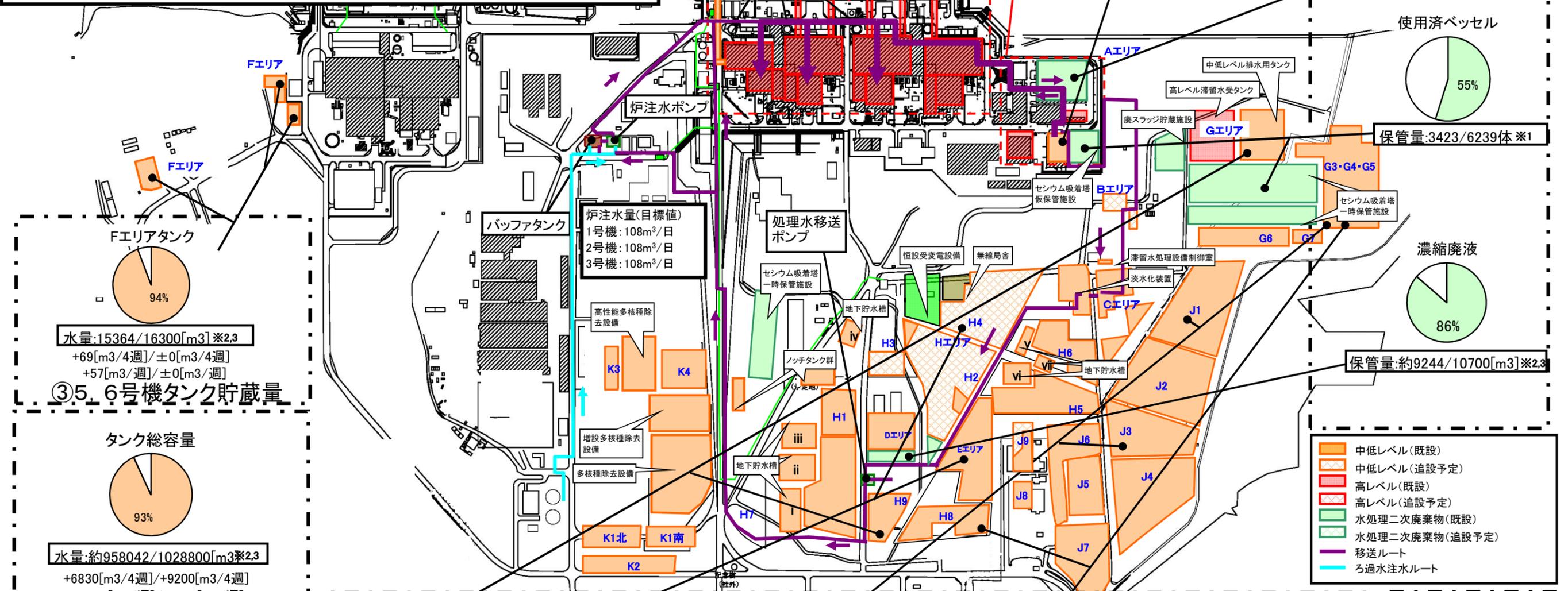


保管量:3423/6239体\*1

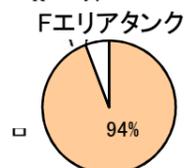


保管量:約9244/10700[m<sup>3</sup>]\*2,3

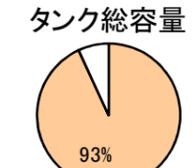
■ 中低レベル(既設)  
■ 中低レベル(追設予定)  
■ 高レベル(既設)  
■ 高レベル(追設予定)  
■ 水処理二次廃棄物(既設)  
■ 水処理二次廃棄物(追設予定)  
→ 移送ルート  
→ ろ過水注水ルート



③5, 6号機タンク貯蔵量



水量:15364/16300[m<sup>3</sup>]\*2,3  
+69[m<sup>3</sup>/4週]/±0[m<sup>3</sup>/4週]  
+57[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]



水量:約958042/1028800[m<sup>3</sup>]\*2,3  
+6830[m<sup>3</sup>/4週]/+9200[m<sup>3</sup>/4週]  
+1465[m<sup>3</sup>/週]/+7800[m<sup>3</sup>/週]

タンク貯蔵量合計(②+③)

②-a RO処理水(淡水)

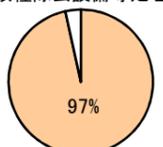


水量:約16213/18900[m<sup>3</sup>]\*2,3  
水位計0%以上の水量:15213[m<sup>3</sup>]  
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約1000[m<sup>3</sup>]  
-461[m<sup>3</sup>/4週]/±0[m<sup>3</sup>/4週]  
-103[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]

②-b濃縮塩水(残水)

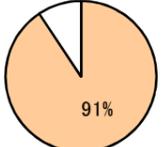
水量:約2700/22100[m<sup>3</sup>]\*2,3  
水位計0%以上の水量:約1800[m<sup>3</sup>]  
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約900[m<sup>3</sup>]  
±0[m<sup>3</sup>/4週]/-8400[m<sup>3</sup>/4週]  
±0[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]

②-c 処理水(多核種除去設備等処理済水)



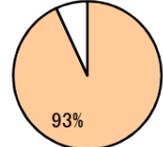
水量:約707014/732400[m<sup>3</sup>]\*2,3,4,6  
水位計0%以上の水量:706014[m<sup>3</sup>]  
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約1000[m<sup>3</sup>]  
+8898[m<sup>3</sup>/4週]/+17600[m<sup>3</sup>/4週]  
+2343[m<sup>3</sup>/週]/+7800[m<sup>3</sup>/週]

②-d Sr処理水等



水量:約216751/239100[m<sup>3</sup>]\*2,3  
水位計0%以上の水量:211751[m<sup>3</sup>]  
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約5000[m<sup>3</sup>]  
-1676[m<sup>3</sup>/4週]/±0[m<sup>3</sup>/4週]  
-832[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]

1~4号機タンク総容量



水量:約942678/1012500[m<sup>3</sup>]\*2,3,4  
水位計0%以上の水量:934778[m<sup>3</sup>]  
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約7900[m<sup>3</sup>]  
+6761[m<sup>3</sup>/4週]/+9200[m<sup>3</sup>/4週]  
+1408[m<sup>3</sup>/週]/+7800[m<sup>3</sup>/週]

水量:約1021714[m<sup>3</sup>]

+5972[m<sup>3</sup>/4週] \*5  
+1448[m<sup>3</sup>/週]

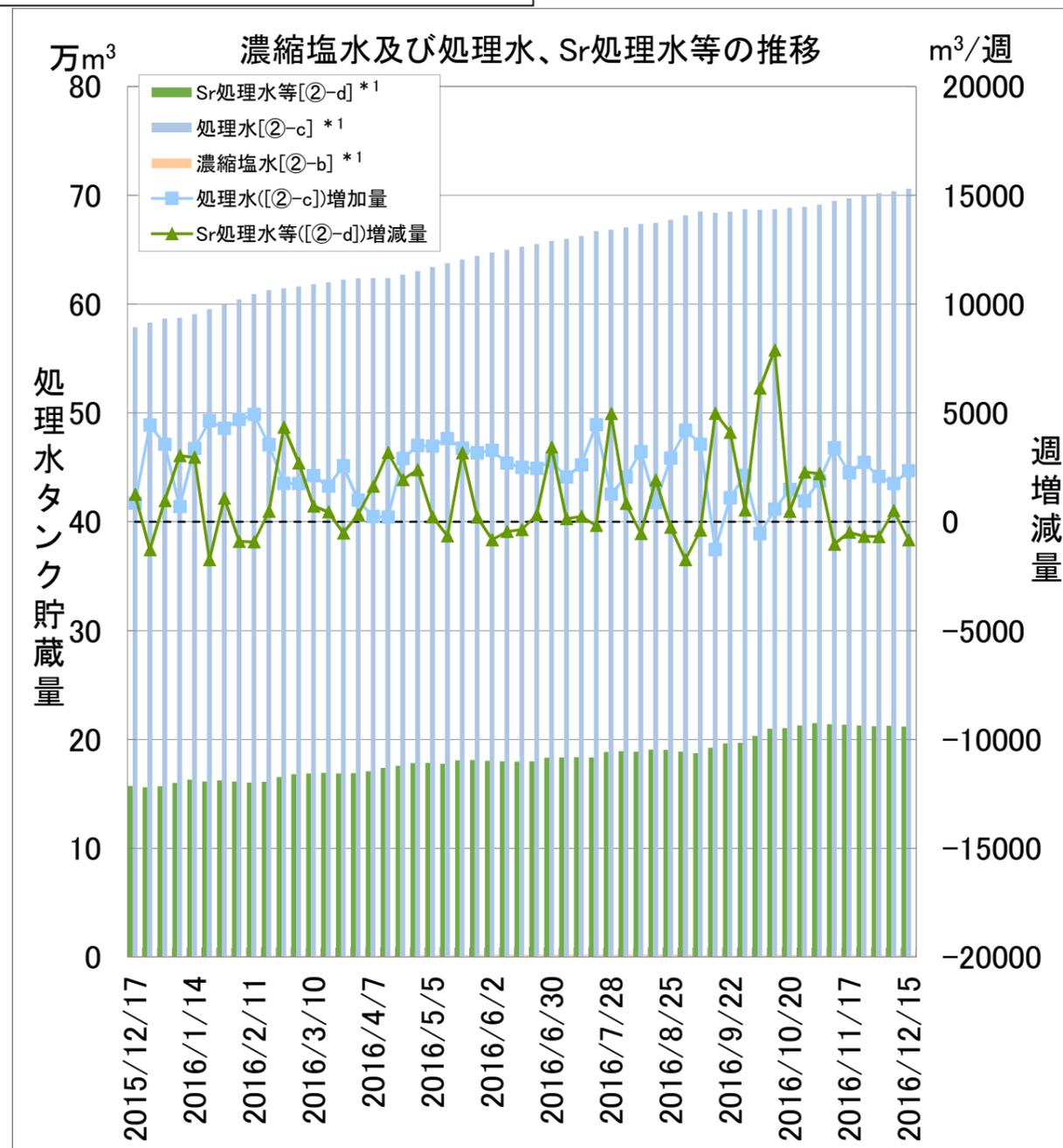
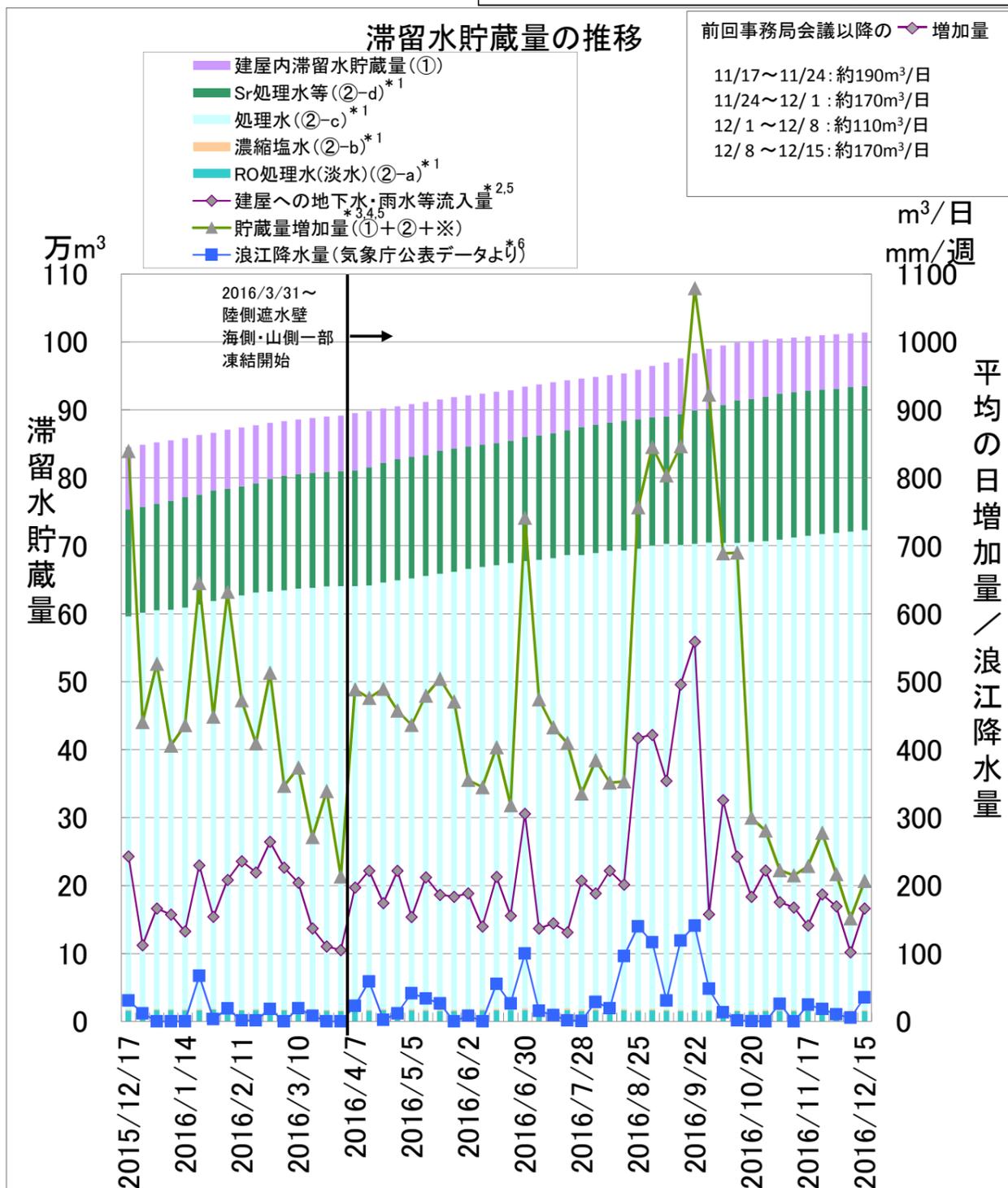
建屋内貯蔵量  
+  
1~4号機タンク貯蔵量  
(①+②)

②1~4号機タンク貯蔵量

タンク堰内水の一時的貯留量(\*12月19日時点の値を記載)  
・メッシュタンク群 約200(±0[m<sup>3</sup>])/約600[m<sup>3</sup>]

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む  
 ※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い  
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)  
 ※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵  
 ※5 ウェルポイント・地下水ドレン(450m<sup>3</sup>/週)、2号機海水配管トンネル立坑Cから2号機T/B(30m<sup>3</sup>/週)、3号機廃棄物地下貯蔵設備建屋から3号機廃棄物処理建屋(170m<sup>3</sup>/週)、共用プールから高温焼却炉建屋(10m<sup>3</sup>/週)、の移送量約660m<sup>3</sup>/週を含む  
 ※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む

### 滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))  
 ②: 1～4号機タンク貯蔵量  
 ([②-aRO処理水(淡水)]+[②-b濃縮塩水]+[②-c処理水]+[②-dSr処理水等])  
 ※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m <sup>3</sup> ]	[m <sup>3</sup> /週]	[m <sup>3</sup> /日] <sup>注1)</sup>	[m <sup>3</sup> /日]
既設多核種除去設備 <sup>注2)</sup>	320,171	540	77	750以上
増設多核種除去設備 <sup>注2)</sup>	315,229	1,803	258	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量	
	[m <sup>3</sup> /週]	[m <sup>3</sup> /日] <sup>注1)</sup>	[m <sup>3</sup> /日]	
セシウム吸着装置			600	
第二セシウム吸着装置	1,564	223	1200	

注1) 週間の平均値  
 注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯蔵

\*1: 水位計0%以上の水量  
 \*2: 2015/9/10より集計方法を変更(建屋・タンク貯蔵量の増加量からの評価→建屋貯蔵量の増減量からの評価)  
 「建屋への地下水・雨水等流入量」=「建屋保有水増減量」+「建屋からタンクへの移送量」-「建屋への移送量(原子炉注水量、ウエルポイント等からの移送量)」  
 \*3: 2015/4/23より集計方法を変更(貯蔵量増加量(①+②)→(①+②+※))  
 \*4: 2016/2/4 濃縮塩水の残水量再評価により水量見直しを行ったため補正  
 \*5: 「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」の評価に用いている「建屋保有水増減量」は建屋水位計から算出しており、下記評価期間において建屋水位計の校正を実施したため、当該期間の「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」は想定される値より少なく評価されている。  
 (2016/3/10～3/17: プロセス主建屋、2016/3/17～3/24: 高温焼却炉建屋、2016/9/22～9/29: 3号機タービン建屋)  
 \*6: 降水量は浪江地点(気象庁)を用いているが、欠測があったことから、富岡地点(気象庁)を代用(2016/4/14～4/21)